

伝えたい心を言葉に

多賀城小学校 六年 小野 紗奈

「がんばれ」という言葉を、私はあの震災の日から何度耳にしたでしょう。震災の影響で水や食べ物も手に入らないという状況の中、私はそのたくさんの「がんばれ」という言葉にはげまされてきました。しかしその反面「がんばれ」という言葉に対し、「どうがんばればいいの？」と思うようになりました。

ある日、避難所になっている多賀城市文化センターに行った時、お姉ちゃんの友達がその文化センターにいたのです。「家が津波にあっちゃったの……。」そんな友達のがたを見て、私は「がんばってね。」としか言えませんでした。それから、私は自分自身に「がんばれ」と言われると、前とはちがいが「この人はどんなことを思っこの言葉を言ってくれたのかな？」と思うようになりました。

それから、数日後食べ物を買いに近くのスーパーに行った時でした。レジで会計をすませて帰ろうと思ったら「がんばってくださいね。」と言われました。きっとこの人も地震の被害にあったと思います。それなのにたくさんの人に「がんばれ」言える優しさと勇気に、私は小さく「ありがとうございます。」と言っていました。

そこで、私は「がんばれ」という一つの言葉の中に、たくさんの意味があるのだなと考えるようになりました。例えば、運動会の徒競走の時「がんばってね」と言われます。きっとその人は、私が転んだりしないように、一等になれるようにそんな思いを込めていたと思います。

「がんばれ」の意味は、その時の状況やつかう人によって変わるのではないかと思いません。きっと言葉はだれかを思う心で、その意味や中身をかえるのだと思います。私にかけられた言葉「がんばれ」は、きつとみんな温い深い気持ちだと思いました。

また、私の好きな詩「雨ニモマケズ」は「がんばれ」とは書かれていないのに、たくさんの人に「がんばれ」といつているように私は思いました。賢治さんの平和を望む気持ちやみんなを思う優しさは、たくさんの人にとどいてると思います。でもなんで、そんなことが書いてないのにそう伝わったのかなと私は考えました。賢治さんは自分の心をすこしの言葉で表現できるのだ、と。

大震災のあとのいろいろな出来事から半年ほどすぎました。しかし、そんなに時間のたった今でも、全国から「がんばれ」というメッセージが届きます。そのメッセージすべてに「ありがとう」とは言えないけれど、たくさんの応援の言葉一つ一つをしっかりと受け止めたいと思います。そして、多くの人々の思いが託された「がんばれ」という言葉に、私は答えていきます。